

## 1 無花粉ヒノキ「丹沢 森のミライ」のこれまで経過について

・雄花をつけるものの花粉を飛散しない無花粉スギは、平成4(1992)年に富山県で最初に発見されました。全国でも20本以上が発見されています。神奈川県内でも、平成16(2004)年に発見(田原1号)し、すでに苗木を生産していますが、無花粉ヒノキの発見は報告されていませんでした。

・ヒノキはスギと共通抗原性を持っているため、同じように花粉症の原因となります。そこで神奈川県では、平成17(2005)年から「花粉の少ないヒノキ」を生産してきました。その後、平成23(2011)年から2年間にわたり、県内のヒノキ林で4,074本のヒノキを調査した結果、平成24(2012)年春に、秦野市内の山林で花粉を飛散しない1個体を発見しました。

・調査の結果、花粉嚢が開かず花粉が飛散しないこと、あわせて種子も形成しない両性不稔個体であることや、さし木で増殖が可能であることなどが明らかになり、平成25(2013)年12月10日に全国初の無花粉ヒノキ発見として記者発表しました。

・その後、ヒノキの基準品種「ナンゴウヒ」等の他品種との比較試験により、花や球果等の形態や冬の葉色等の違いを確認して、無花粉ヒノキの品種保全ため、平成30(2018)年7月4日農林水産省へ「神奈川無花粉ヒ1号」として品種登録を出願しました(出願番号33243号、平成30(2018)年10月29日出願公示)。

・出願公示により仮保護期間になったことから、県内の苗木生産者の協同組合である神奈川県山林種苗協同組合と許諾契約を締結し、成長や材質等が他のヒノキと比較して遜色ないことを確認の上、令和元(2019)年5月にさし穂240本を配布し、苗木生産を開始しました。

・2年間の育苗後、令和3年春の初出荷に合わせて愛称を「丹沢 森のミライ」と決定し(2021年3月29日記者発表)、7月8日に秦野市寺山に132本を植栽しました。



秦野市内で発見した無花粉ヒノキ

## 2 神奈川県における花粉症対策スギ・ヒノキ開発の取組について

### (1) スギ

|     | 年       | 事項                                     |
|-----|---------|--|
| 少花粉 | 平成 10 年 | 花粉の少ないスギ 17 品種を選抜、種子の生産、配布を開始。         |
|     | 平成 12 年 | 花粉の少ないスギ採種園を造成し、種子生産を本格的に開始。           |
|     | 平成 16 年 | 春の出荷より花粉の少ない苗へ移行。                      |
| 無花粉 | 平成 16 年 | 2月に花粉の少ないスギ苗木から無花粉スギを1本選抜。             |
|     | 平成 17 年 | 前年に選抜した無花粉スギの再現性を確認し、「田原1号」として選抜。      |
|     | 平成 19 年 | 温室を利用した閉鎖系の試験採種園を整備。                   |
|     | 平成 20 年 | 苗木生産者に種子を配布し、無花粉スギの生産を開始。              |
|     | 平成 22 年 | 神奈川県で開催された第 61 回全国植樹祭に無花粉スギ約 600 本を出荷。 |
|     | 令和2年    | 春の生産量は約 1 万本。                          |

### (2) ヒノキ

|     | 年       | 事項   |
|-----|---------|--|
| 少花粉 | 平成 16 年 | 全国で初めて花粉の少ないヒノキ5品種を選抜、種子の採種を実施。            |
|     | 平成 17 年 | 春より苗木生産者に種子の配布を実施し、花粉の少ないヒノキ苗の生産を開始。       |
|     | 平成 24 年 | 春に県立 21 世紀の森内の花粉の少ないヒノキ採種園が完成し、種子の生産体制を確立。 |
|     | 平成 28 年 | 春に出荷した山出し苗木より、全国で初めてスギ・ヒノキともに花粉症対策品種に転換。   |
| 無花粉 | 平成 24 年 | 春に両性不稔ヒノキを発見。                              |
|     | 令和3年    | 愛称を「丹沢 森のミライ」と決定し、初出荷。                     |
|     | 令和4年    | 無花粉ヒノキ「丹沢 森のミライ」の品種登録公示。                   |